

生駒市立桜ヶ丘小学校  
校長 奥田 隆史

令和7年度 学校評価 児童「学校生活アンケート」保護者「学校教育評価アンケート」結果について

- 目的 本アンケートは、児童や保護者の方々の意見を聞き、桜ヶ丘小学校を「魅力あるよりよい学校」にしていくことを目的としています。
- 対象 桜ヶ丘小学校に在籍する児童及び保護者
- 方法 Google フォームによる回答
- 期間 令和7年12月12日配信、12月19日を回答期限として実施（児童は11日～17日で実施）
- 回答率 児童 546/641名 85.1% 保護者 456/507名 89.9%

### 1 【知】 knowledge 〈確かな学力〉深く考える子の育成に関して

(1)「主体的に学び、自分の思いや考えを適切に伝え合うことができる子どもの育成～言語活動を軸とした授業づくりを通して～」を主題とした校内研究授業に取り組む。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
1	児童	学習の時間に自分の考えを友だちに説明したり、友だちの考えを聞いたりして、学び合うことができましたか。	86.3	91.6	5.3
	保護者	学校は、自分の考えを友だちに説明したり、友だちの考えを聞いたりして、学び合うことができるよう、授業づくりをしている。	95.7	95.2	0.5

※数値はとてもそう思う・そう思うと回答した児童及び当てはまる・どちらかといえ、当てはまると回答した保護者の割合(%)を、R6・R7のセルの網かけの黄色は80%以上を桃色は90%以上を達成したことを表します。

また、増減欄の赤矢印は前年比増を青矢印は前年比減を表します（以下同様）。

○児童も保護者も概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。本年度は公益財団法人日本教育公務員弘済会奈良支部様より学校教育研究活動助成をいただき、生駒市教育委員会教育指導課教育政策室主幹の若松俊介氏を講師として招聘するなどして校内研修を進めてきた。昨年度に第3次生駒市教育大綱が策定されたこともあり、個別最適な学びと協働的な学びの推進に向けた授業改善により一層取り組んでいきたい。

(2)個別最適な学びと協働的な学びの推進に向けて、オンラインで使えるグラフィックデザインツールのCanva等ICTの効果的な活用を図る。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
2	児童	タブレットなどのICT機器を利用することで、友だちと協力しながら学習を進めることができましたか。	86.2	89.5	3.3
	保護者	学校は、タブレットなどのICT機器を活用することで、グループ学習等を取り入れた授業づくりに取り組んでいる。	89.5	92.6	3.1

○児童も保護者も概ね達成していると回答する割合が高く、児童と保護者ともに昨年度より約3ポイント増す結果となった。本年度は主幹教諭による自主的な教員のICT研修を積極的に行い、そこで研修したことを活かすなどの取組を行った。ロイロノート・スクール等の授業支援クラウドと併せてCanvaといったグラフィックデザインツール等のICTを最大限活用して、これまでよりさらに個別最適な学びと協働的な学びを推進させていきたい。また、本年度より本市児童生徒のiPadの利用が始まり、情報モラルについてもさらに留意していきたい。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
3	児 童	友だちといろいろなことを協力して取り組んでいますか。	89.9	94.2	4.3

※回答者が児童または保護者のみの場合は、どちらかへのみの設問の内容になります（以下同様）。

○児童は概ね達成していると回答する割合が高く、昨年度より 4.3 ポイント増す結果となった。これからも互いを認め合う相互承認の感性を大切に、協働的な学び等の学習活動や学校生活の様々な場面を通して、理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていきたい。

## 2 【徳】moral〈豊かな心〉明るくやさしい子の育成に関して

(1)道徳等で、命を大切にしようとする心情を育む指導に取り組む。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
4	児 童	授業などで命の大切さについて学んでいますか。	90.6	92.8	2.2
	保護者	子どもたち（お子さん）は、学校の授業などで命の大切さについて学んでいる。	87.6	87.0	0.6

○児童も保護者も概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。特別の教科道徳、国語、理科（生物分野）、生活科、保健体育、学級活動等の授業や食育等を通して、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する心情や態度を育むことと併せて、存在を否定するような暴言や誹謗中傷への指導を徹底していきたい。

(2)縦割り班活動で異学年交流を促進し、自尊感情や自己有用感を高める。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
5	児 童	自分には、よいところがあると思いますか。	73.2	76.2	3.0
	保護者	学校は、子どもの話を肯定的な雰囲気や聞くなど自己肯定感を高めることができるよう取り組んでいる。	93.0	92.8	0.2

○保護者は概ね達成していると回答している割合が高い結果となった。児童は概ね達成していると回答している割合が保護者より 16.6 ポイント（昨年度は 19.8 ポイント）下回るものの 80%弱にまで増す結果となった。縦割り班活動と併せて、教科における指導はもとより、あらゆる教育活動を通じて子どものよさやたとえ失敗したとしても挑戦したことを認め、励ます取組をこれからも続けていくことが大切である。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
6	児 童	たてわり活動の遊びを通して、班の人たちと楽しく過ごすことができましたか。	87.3	87.1	0.2
	保護者	学校は、たてわり活動の遊び等を通して、子どもの社会性を育むことができるよう取り組んでいる。	97.5	97.6	0.1

○児童も保護者も概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。これからもたてわり活動の遊びや行事を通して様々な異学年交流活動によって人間関係を広めたり深めたりする中で、どの子もよさを生かし、認め合い自己有用感を高めていきたい。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
7	児 童	自分から進んであいさつをしていますか。	79.5	80.8	1.3
	保護者	子どもたち（お子さん）は、家庭や地域で進んであいさつができています。	78.4	74.8	3.6

○児童は昨年度より 1.3 ポイント増し概ね達成していると回答している割合が高い結果となった。保護者は概ね達成していると回答している割合が児童より 6.0 ポイント（昨年度は 1.1 ポイント）下回り 70%強にまでポイント減となる結果となった。あいさつをすると、相手から返礼されることで、自分が認められたと感じることができ、児童の自己肯定感を高めることにつながるが、校区内や隣接地域での不審事案等の発生により、このような結果になったものと推察される。児童が自分から挨拶をする習慣をつけることで、児童の積極性や主体性を育むことを目指したい。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
8	保護者	子どもたち（お子さん）は、家庭や地域できまりや約束を守って生活を送っている。	94.3	93.9	0.4 ↓

○保護者は概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。きまりや約束などの規律は、個人や集団の中で自然に確立されていくものではなく、大人の意図的かつ計画的な躰や指導によって、児童に身に付いていくものであると考える。児童が守るべき規律は、大人が守るべき躰や指導の規律でもあるので、大人の共通理解や大人による共通実践をこれからも大切にしたい。

### 3 【体】 physical health 〈健やかな体〉心身ともにたくましい子の育成に関して

(1)体育科の授業等に握力や柔軟性を高めるストレッチを全校で積極的に導入し、併せてけがの予防にも努める。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
8	児 童	廊下や階段を静かに歩いていますか。	72.2	74.9	2.7 ↑

○児童は概ね達成していると回答する割合が昨年度に続き 80%を下回ったが昨年度より 2.7 ポイント増し 70%半ばにまで増す結果となった。本年度のけがの件数は昨年度より 3 割減っているものの、昨年度の災害発生率は全国(4.47%)や生駒市(6.36%)と比べると本校(9.10%)は依然として高い。廊下でのけがは走っている時に起こることが多いので、落ち着いて生活することと併せて廊下や階段での歩行の指導にこれからも努めていきたい。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
9	児 童	安全に気をつけて登下校していますか。	90.6	94.2	3.6 ↑
	保護者	子どもたち（お子さん）は、安全に気をつけて登下校ができています。	93.3	90.8	2.5 ↓

○児童も保護者も概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。地域ボランティアの方々による登下校時の見守り活動もあり子どもたちは安全に気をつけて登下校できているが、児童と保護者の結果に乖離が見受けられるので、これからも登下校時の安全指導に努めていきたい。

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
10	児 童	体育の授業や休み時間に外で体を動かすことは好きですか。	77.2	77.9	0.7 ↑
	保護者	学校は、体育の授業や休み時間に外で体を動かすことを通して、体力向上を意識した教育をしている。	91.8	93.2	1.4 ↑

○保護者は概ね達成していると回答する割合が高い結果となったが、児童は概ね達成していると回答する割合が昨年度に続き 80%を下回る結果となった。設問の趣旨が異なるので、両者を比べることはできないが、児童が外で体を動かすことに関しては夏の暑さも影響しているのかもしれない。握力や柔軟性を高めることと併せて今後も児童の体力向上に努めていきたい。

### 4 地域とともにある学校等に関して

No.	回答者	設 問	R6	R7	増減
3	保護者	学校は、校内や子どもの様子を、お便り・ホームページ・X（旧 Twitter）・メール配信・懇談・通知表等で分かりやすく伝えている。	86.1	87.3	1.2 ↑

○保護者は概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。本年度は昨年度と比較してホームページや X（旧 Twitter）等での発信ができていたとはいえ、この割合の高さは保護者の方々のさらなる期待の表れであると受け止め、これからも発信に努めていきたい。

## 令和7年度 学校評価 保護者「学校教育評価アンケート」結果について

- 目的 本アンケートは、保護者の方々の意見を聞き、桜ヶ丘小学校を「魅力あるよりよい学校」にしていくことを目的としています。
- 対象 桜ヶ丘小学校に在籍する児童の保護者
- 方法 Google フォームによる回答
- 期間 令和7年12月12日配信、12月19日を回答期限として実施
- 回答率 保護者 456/507名 89.9%

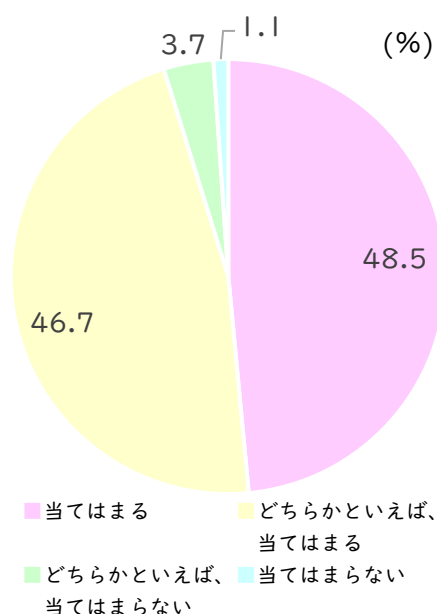
## I 【知】 knowledge 〈確かな学力〉深く考える子の育成に関して

(1)「主体的に学び、自分の思いや考えを適切に伝え合うことができる子どもの育成～言語活動を軸とした授業づくりを通して～」を主題とした校内研究授業に取り組む。

No.1 学校は、自分の考えを友だちに説明したり、友だちの考えを聞いたりして、学び合うことができるよう、授業づくりをしている。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。

本年度は公益財団法人日本教育公務員弘済会奈良支部様より学校教育研究活動助成をいただき、生駒市教育委員会教育指導課教育政策室主幹の若松俊介氏を講師として招聘するなどして校内研修を進めてきた。昨年度に第3次生駒市教育大綱が策定されたこともあり、個別最適な学びと協働的な学びの推進に向けた授業改善により一層取り組んでいきたい。



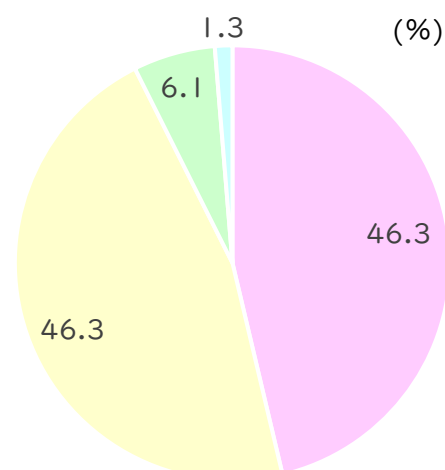
※凡例以下同様、以下省略

(2)個別最適な学びと協働的な学びの推進に向けて、オンラインで使えるグラフィックデザインツールの Canva 等 ICT の効果的な活用を図る。

No.2 学校は、タブレットなどの ICT 機器を活用することで、グループ学習等を取り入れた授業づくりに取り組んでいる。

○概ね達成していると回答する割合が高く、昨年度より

3.1 ポイント増す結果となった。本年度は主幹教諭による自主的な教員の ICT 研修を積極的に行い、そこで研修したことを活かすなどの取組を行った。ロイロノート・スクール等の授業支援クラウドと併せて Canva といったグラフィックデザインツール等の ICT を最大限活用して、これまでよりさらに個別最適な学びと協働的な学びを推進させていきたい。また、本年度より本市児童生徒の iPad の利用が始まり、情報モラルについてもさらに留意していきたい。

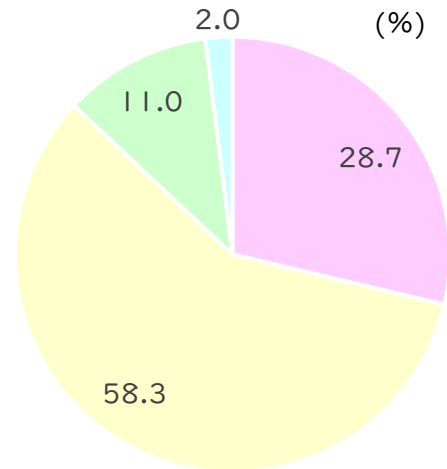


## 2【徳】moral〈豊かな心〉明るくやさしい子の育成に関して

(1) 道徳等で、命を大切にしようとする心情を育む指導に取り組む。

No.4 子どもたち（お子さん）は、学校の授業などで命の大切さについて学んでいる。

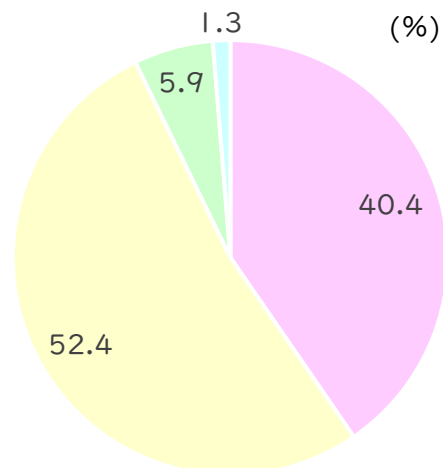
○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。特別の教科道徳、国語、理科（生物分野）、生活科、保健体育、学級活動等の授業や食育等を通して、生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する心情や態度を育むことと併せて、存在を否定するような暴言や誹謗中傷への指導を徹底していきたい。



(2) 縦割り班活動で異学年交流を促進し、自尊感情や自己有用感を高める。

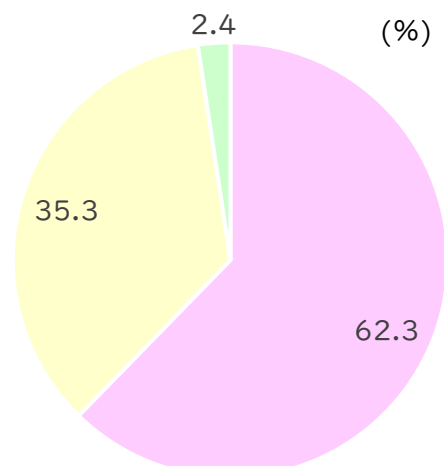
No.5 学校は、子どもの話を肯定的な雰囲気で聞くなど自己肯定感を高めることができるよう取り組んでいる。

○概ね達成していると回答している割合が高い結果となった。児童は概ね達成していると回答している割合が保護者より 16.6 ポイント（昨年度は 19.8 ポイント）下回るものの 80%弱にまで増す結果となった。家庭と連携し、縦割り班活動と併せて、教科における指導はもとより、あらゆる教育活動を通じて子どものよさやたとえ失敗したとしても挑戦したことを認め、励ます取組をこれからも続けていくことが大切である。



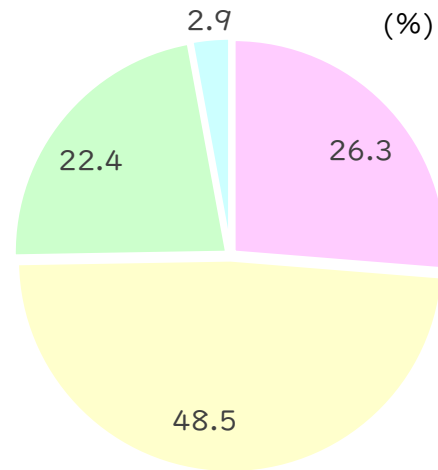
No.6 学校は、たてわり活動の遊び等を通して、子どもの社会性を育むことができるよう取り組んでいる。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。これからもたてわり活動の遊びや行事を通して様々な異学年交流活動によって人間関係を広めたり深めたりする中で、どの子どもよさを生かし、認め合い自己有用感を高めていきたい。



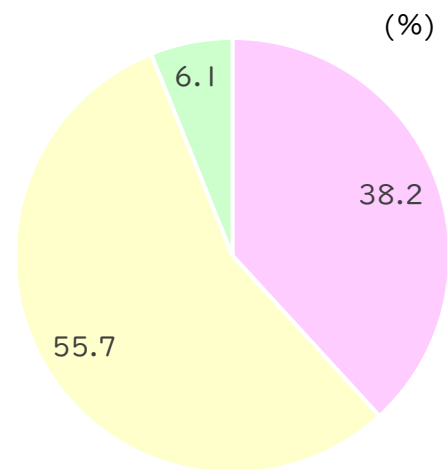
No.7 子どもたち（お子さん）は、家庭や地域で進んであいさつができています。

○概ね達成していると回答する割合が児童より 6.0 ポイント（昨年度は 1.1 ポイント）下回り 70%強にまでポイント減となる結果となった。あいさつをする、相手から返礼されることで、自分が認められたと感じることができ、児童の自己肯定感を高めることにつながるが、校区内や隣接地域での不審事案等の発生により、このような結果になったものと推察される。児童が自分から挨拶をする習慣をつけることで、児童の積極性や主体性を育むことを目指したい。



No.8 子どもたち（お子さん）は、家庭や地域できまりや約束を守って生活を送っている。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。きまりや約束などの規律は、個人や集団の中で自然に確立されていくものではなく、大人の意図的かつ計画的な躰や指導によって、児童に身に付いていくものであると考える。児童が守るべき規律は、大人が守るべき躰や指導の規律でもあるので、大人の共通理解や大人による共通実践をこれからも大切にしたい。

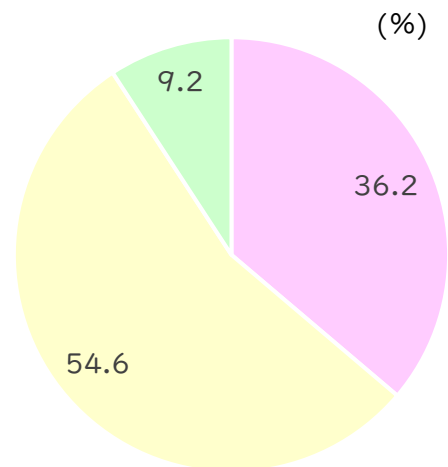


### 3 【体】 physical health 〈健やかな体〉心身ともにたくましい子の育成に関して

(1)体育科の授業等に握力や柔軟性を高めるストレッチを全校で積極的に導入し、併せてけがの予防にも努める。

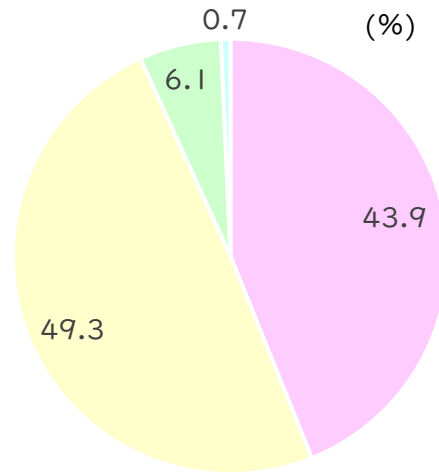
No.9 子どもたち（お子さん）は、安全に気をつけて登下校ができています。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。地域ボランティアの方々による登下校時の見守り活動もあり子どもたちは安全に気をつけて登下校できているが、児童（94.2 ポイント、昨年度より 3.6 ポイント増）と保護者（90.8 ポイント、昨年度より 2.5 ポイント減）の結果に乖離が見受けられるので、これからも登下校時の安全指導に努めていきたい。



No.10 学校は、体育の授業や休み時間に外で体を動かすことを通して、体力向上を意識した教育をしている。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となったが、児童は概ね達成していると回答する割合が昨年度に続き 80%を下回る結果となった。設問の趣旨が異なるので、両者を比べることはできないが、児童が外で体を動かすことに関しては夏の暑さも影響しているのかもしれない。握力や柔軟性を高めることと併せて今後も児童の体力向上に努めていきたい。



#### 4 地域とともにある学校等に関して

No.3 学校は、校内や子どもの様子を、お便り・ホームページ・X (旧 Twitter)・メール配信・懇談・通知表等で分かりやすく伝えている。

○概ね達成していると回答する割合が高い結果となった。本年度は昨年度と比較してホームページやX (旧 Twitter) 等での発信ができていたとはいえ、この割合の高さは保護者の方々のさらなる期待の表れであると受け止め、これからも発信に努めていきたい。

